

村上洋子さんを 応援します

原ミナ汰

共生社会をつくるセク
シャルマイノリティ支援
全国ネットワーク代表



私はもうかれこれ30年、性的マイノリティの相談支援をしています。元々は自分を元気づけようとした交流や相談ですが、私たちの声を多くの人に伝えたいとの思いで、繋がりを広げてきました。日常で自分の性を表現するのが難しいこの日本で、性的マイノリティの多くは息を潜めて暮らしています。「自分は周囲と違うから、大事にされなくても仕方ない」と感じている人もいます。

そんななか、稲城市内で性の多様性講座を企画し、市の施策の後押しをしてくださる村上さんの存在を知りました。まったくカベを感じないお人柄で、「暮らし方は違っても、みんな同じ」と接して下さる村上さん！これからも、地域で大きな力を発揮してもらおうではありませんか。

山田 真 八王子中央診療所・小児科医

中川李枝子 児童文学作家

山田和夫 要町あさやけ子ども食堂店主

鎌仲ひとみ 映像作家

天笠啓祐 ジャーナリスト

上田昌文 NPO市民科学研究室・代表理事

田中 優 未来バンク事業組合 理事長

三木由希子 NPO法人情報公開クリアリンクハウス理事長

鏡 諭 淑徳大学教授

土谷雅美 生活クラブ生協 理事長

山内れい子 東京・生活者ネットワーク都議会議員

中村美穂子 前稲城市議会議員

村上洋子プロフィール

■1955年 山形県生まれ、県立長井高校卒業 ■78年 法政大学文学部地理学科卒業、全労済、文映教育映画社に勤務 ■85年 結婚、出産、生活クラブ生協に加入、所沢市から調布市に転居 PTA活動、生活クラブ調布西支部委員長、調布ネットの活動に参加「調布産野菜の直売所マップ」作り、給食に調布産野菜を提供する農家との懇談会 ■99年 多摩南生活クラブ生協理事2期4年、夫と自分双方の親の介護始まる ■2004年 調布市子ども条例制定準備委員会委員 ■07年 稲城市若葉台に転居 ■08～15年 若葉台バオバブ保育園で非常勤として働く ■09年 稲城・生活者ネットワークで活動を開始 ■14年 稲城・生活者ネットワーク政策委員、生活クラブまち稲城委員、たすけあいワーカーズこんべいとう設立準備会メンバー ■15年 稲城市議会議員初当選、総務委員会所属、三市収益事業組合議員、三多摩上下水及び道路建設促進協議会委員

■若葉台自治会なかよし校舎対策委員会委員

●資格・趣味：中学・高校教員免許(社会)、保育士資格、剣道二段 ●家族：夫、長女、長男、次女 ●若葉台在住

<http://murakamiyoko.seikatsusha.me>

選挙ドットコム 村上洋子 検索

facebook 村上洋子のいきいきレポート

**生活者ネット
3つのルール**

- 1 議員報酬は市民の政治活動資金に**
生活者ネットワークの活動はカンパで支えられています。議員報酬は市民の政治活動資金に活かします。お金の流れは公開します。
- 2 議員は交代制(ローテーション)**
議員は最長でも3期12年で交代し、議員を職業化、特権化しません。
- 3 選挙はカンパとボランティアで**
みんなで知恵や力を出し合い、選挙を行います。

カンパ振込先 郵便振替口座 00170-7-191206
稲城・生活者ネットワーク

稲城・生活者ネットワーク

稲城・生活者ネットワークレポート〈村上洋子レポート〉No.108

発行：稲城・生活者ネットワーク 発行日：2019年2月1日

発行責任者：村上洋子

連絡先：〒206-0804 稲城市百村1608-3 サンコーポ202 TEL: 042-379-2435

FAX: 042-379-2435 inagi@seikatsusha.net <http://inagi.seikatsusha.me>

村上

MURAKAMI YOKO

洋子

稲城・生活者ネットワークと
村上洋子の活動を紹介します

格差が拡大し閉塞感が強まるなか、社会矛盾を解決に導くことができる新しい政治が求められています。多様な人々が、互いの個性を大事にしながら協調して暮らす。持続可能な社会を築くために、税金の有効な使いみちと世代を超えて共生するルールをきめることが、政治の果たすべき役割です。安心の子育て・介護・医療・住まいや教育を誰もが受け取ることのできる稲城を実現するために、市政に挑戦します。



ひとりにしない
子育て・介護

支えあい分かちあう
地域共生社会へ

むらかみ
ようこ

稲城・生活者ネットワーク
市議会議員

稲城・生活者ネットワーク 村上洋子の提案



ひとりじゃない 子育て・介護

- 孤立させない子育て支援で、虐待をゼロに
- 在宅介護・医療を支える基盤を強化

子どもの笑顔を 地域で守る

- 自己肯定感をはぐくみ、互いの人権を認めあえる教育をすすめる
- 子どもや若者の意見をまちづくりにか活かす
- 稲城市子ども権利条約をつくる



多様性を認め合い、 すべての人の人権が 保障されるまち

- 高齢であっても、障がいがあっても安心して暮らせるたすけあいのしくみや共に働く場をつくる



性の多様性を認め合うま ち、同性パートナーシッ プ制度の実現

- ジェンダー平等を目指して、セクハラ・DVの禁止とあらゆる場面で男女平等を推進する

若者が 希望を持てるまち

- 失敗しても再チャレンジできる支援のしくみをつくる

緑と農業を守る

- 公共の緑を有効に利用する
- 個人の農地を守る農業支援のしくみをつくる



原発ゼロ、持続可能な 社会をつくる

- 災害に備え、市独自の小規模エネルギー政策を市民参加でつくる
- 再生可能エネルギーの推進

大事なことは 市民が決める

- 施策の決定に市民参加と議会の活発な意見交換を実現する

- 憲法を活かし、平和をまもる社会をつくる
- 自治体から平和を守るアクションを起こす

住みたいまちは、
人のつながりのあるまち
活かそう、市民力！

インディアンの言い伝えに「子どもを育てるのに親だけでは不十分、村中の力が必要だ」という言葉があるそうです。三人の子どもを育ててみてその通りだと思いません。村中の力で子どもを見守り育てる。村中の力で困っている人を助ける。そんなしくみを市民自らのアイデアと力で作っていけないだろうか、という夢をもって市議会議員に挑戦し1期4年経ちました。

移り住んできた子育て中の若い世代が孤立感を感じないよう、一般質問ではフィンランドの「ネウボラ」を紹介しながら妊娠期から就学までの一貫した子育て支援の必要性を訴えてきました。公民館や文化センター、児童館などで親子がお弁当を広げて食べられる「居ていい居場所」の提案を度々してきました。まだまだルールの壁は厚いですが、中央公民館の保育室の開放日が実現しました。登録団体ではなくてもその日は小さいお子さんと利用することができます。

人権に関しては性の多様性を認め合う施策の推進に関して誰よりも多く議会で質問を重ねて来ました。当事者を招いた学習会の開催や質問を通じて、ようやく行政の認識が市民に追いついてきたと感じます。

若い世代の流入で市民の意識もどんどん変わっています。ジェンダーや人権に対するフラットな感覚を持ちながら、昔ながらの人情味あふれるつながりも大事にする「ゆるく、温かいつながり」を大切に「住みたいまち稲城」をつくります！



上谷戸大橋水車小屋付近で、子ども参加で水質調査。2018年8月

Information

2019 政策発表集会 《村上洋子といきいき会議／まちづくりのお話》

- 2019年3月9日(土) 17:00～
- 稲城・生活者ネットワーク事務所